

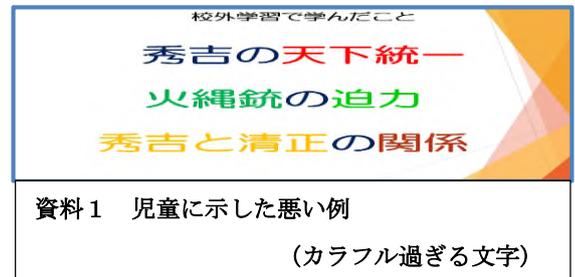
実践記録（小6・総合的な学習の時間）

1 ねらい

児童が学び考えたことを他者に伝えるプレゼンテーション活動を通し、自分の考えを分かりやすく伝える力を高める。

2 手立て

- ・ プレゼン構成シートに、伝える相手、学習した内容の中で相手に伝えたいこと、伝えるために必要な情報や資料などを書き出す。
- ・ ホワイトボードを使用し、情報を提示して話すようにする。
- ・ 良い例、悪い例を盛り込んだ模擬プレゼン資料を見せ、グループ単位で分かりやすい伝え方の検討をする。(資料1)グループで考えた改善案をもとに模擬プレゼン資料を改善する。



3 実践の様子

児童は、来年修学旅行に行く5年生に、修学旅行への期待感を高めさせたいと、伝える相手と伝える目的を明確にすることができた。自分達を感じた修学旅行の楽しさや、修学旅行で学ぶことができたことを伝え、どんな思いをもってもらいたいのか。分かりやすく伝えるためには、どんな情報が必要なのか。一つ一つ真剣にグループで話し合いながら、プレゼン構成シートに書き込み始めた。

プレゼン構成が決まったあとは、伝え方の検討を行った。プレゼンテーション資料の作成に入る前に、教師が模擬プレゼンを実施した。 unnecessary 説明が多く文字量の多いスライドや、話す内容に合っていない写真といった悪い例と、文字数や大きさが適切で分かりやすいスライドや、話の内容に合った写真といった良い例の両方を盛り込んでおいた。模擬プレゼンを行い、児童にそのプレゼンテーションの改善点を考えさせ、発表させた。その改善をその場で実施し、どう良くなるかを全員で確認した。

資料の見せ方一つで伝わり方が大きく変わることに気付くことができ、一つ一つ細部にこだわりプレゼンテーション資料を作り上げ、発表を行うことができた。発表を終えた児童は大満足。伝えきった達成感にあふれていた。肝心の5年生のアンケート結果、「やった。ねらい通りの感想がある。」伝えたいことが伝わり、喜びいっぱいであった。並行して行っていた毎朝のスピーチでは、ホワイトボードを使い、話の内容に合わせた資料を用意し、それを示しながらスピーチを行うようにした。スピーチを行った児童の良かった点や改善点を毎朝伝えることを繰り返していくと、資料の使い方を工夫する姿が多く見られるようになっていった。

4 成果と課題

- 伝えたいことを知らない相手でも、相手の立場になり、何をどう伝えるべきかを工夫して伝えることで、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができた。
- 毎日のスピーチを通し、話を補う資料の作り方や資料を見せての話し方、相手の興味を引く話し方を身に付けさせることができた。
- 考え準備し自分の考えを伝えることはできた。しかし、前もっての準備がなくても伝えられる力も身に付けて行く必要がある。